

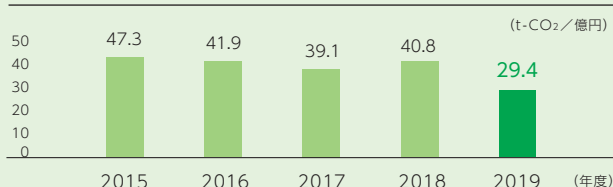
自然との共存 ― 環境にやさしい建設業をめざして

建設現場における環境負荷低減

CO₂排出量の削減

当社では、2004年度よりCO₂排出量の削減を環境目標に掲げており、建設現場における低公害型重機・機械・車両の使用と適正なメンテナンス、省燃費運転やアイドリングストップの励行、LED照明の使用、太陽光パネルの設置、CO₂排出量を考慮した施工計画などの施策を実行しています。その成果として、2019年度のCO₂排出量原単位(完成高1億円当たりCO₂排出量)は、全工種加重平均で29.4t-CO₂/億円となり、1990年基準原単位量*に比較して55.7%の削減となりました。

CO₂排出量原単位



*1990年基準原単位量として、当社は海上土木 90.000 (t-CO₂/億円)、陸上土木 65.605 (t-CO₂/億円)、建築 16.612 (t-CO₂/億円)を使用しています。

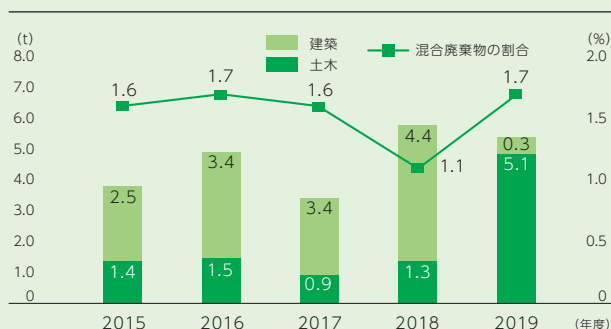
混合廃棄物排出量の削減に向けて

2019年度の混合廃棄物の完成工事高1億円当たりの排出量は、土木工事で5.1t/億円、建築工事で0.3t/億円、建設廃棄物排出量に占める混合廃棄物排出量の割合は1.7%となりました。

建築工事では、前年度より4.1t/億円大きく減少しました。これは現場における分別の徹底に加え、マンション工事が減少し、比較的混合廃棄物発生が少ない大型倉庫などの鉄骨造工事の割合が高かったことによるものです。一方、土木工事では排出量が3.8t/億円増加しましたが、草木等混入土や油とがれき混じりの土砂の大量排出という特殊要因を伴う工事によるものです。これにより建設廃棄物排出量に占める混合廃棄物排出量の割合が前年度より0.6%増加となりました。

今後も分別や再利用をより徹底し、さらなる混合廃棄物排出量の削減に努めます。

完成工事高1億円当たりの混合廃棄物排出量と建設廃棄物排出量に占める混合廃棄物排出量の割合



環境へ配慮する意識の醸成と環境法令の遵守に向けて

本社・支店の安全環境部門により、現場における環境関係法令遵守と適正な環境管理の維持に向けた定期的な環境パトロールや本社役員パトロールを実施し、継続的改善と環境へ配慮する意識の啓蒙を図っています。

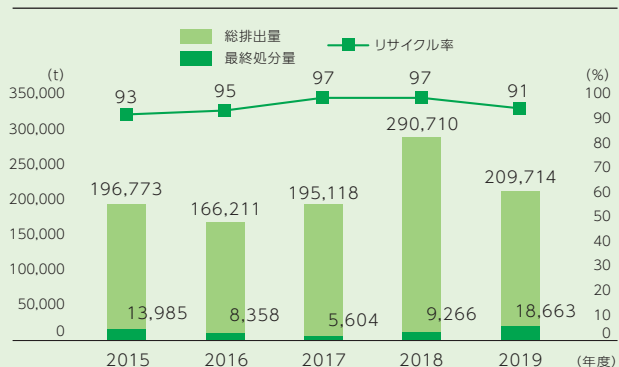
また、グループ会社を含めた社員教育の一環として環境専門の集合教育を実施し、過去の環境事故事例の共有と、建設廃棄物、アスベスト・PCBなど有害物の適正管理・適正処理の徹底、油流出などによる海洋汚染防止の周知・指導を通して、環境管理や環境法令遵守の重要性への理解を深め、環境事故防止に努めています。

建設廃棄物の削減とリサイクル率の向上に向けて

建設廃棄物の排出量は工事の規模・種類・工事量によって増減しますが、当社では、施工計画段階での最適な工法や資材の選択、梱包材の削減、資材のプレカット、広域認定制度の活用などにより建設廃棄物の削減に努めるとともに、現場における分別の徹底による混合廃棄物の削減、優良な専門処理業者による中間処理を積極的に活用してリサイクル率の向上を図るとともに、電子マニフェストや電子契約、自社の産廃集計管理システムの活用と処理状況の現地確認を推進し、建設廃棄物を適正に処理しています。

2019年度の国内工事における建設廃棄物排出量は20.9万tとなり、前年度より8.1万t減少しました。一方、全社のリサイクル率については前年度より6%減少しましたが、主な要因は土木工事において発生した大量の建設発生土のリサイクル受入先がなく最終処分を行ったことによるものです。今後もさらなるリサイクル率の向上に努めます。

建設廃棄物排出量とリサイクル率



「生物多様性行動指針」については
下記コーポレートサイトをご覧ください。
<https://www.toa-const.co.jp/company/csr/biodiversity.html>

